

# よう 徳 ざん 養 徳 山

- 1 所在地 古賀市薦野  
(若宮神社そば)
- 2 時代 平安時代～江戸時代
- 3 主要遺構 薦野一族の墓所
- 4 養徳山のおこり

薦野氏の祖・峯延は宣化天皇から出た丹治比氏の出身で、平安時代に薦野に移り住み、薦野氏を称したと伝わります。

彼は臼ヶ岳城(薦野城)を築き、小松岡に砦を築いて邑城とし、行基菩薩を勧請して清瀧寺を開いたといわれ、薬王寺温泉の伝説にもその名を見ることができます。峯延が亡くなると戒名を養徳院了恩とつけられ、小松岡に葬られました。そのため墓所を養徳山と呼ぶようになったといえます。ここに祀られている古い五輪の塔が峯延の墓といわれています。



養徳山を道路側から見た遠景



養徳山の場所



## 5 養徳山に祀られている人々

### 薦野峯延

養徳山には峯延のものと伝わる墓のほか、彼の850回忌を記念して建てられた顕彰碑があります。これは、子孫で福岡藩家老を務めた増厚（重昌の孫）によるものです。

### 薦野増時（立花賢賀）

福岡藩における薦野氏の地位を築いた人物です。彼は立花氏に仕え、優れた才覚で外交・内政両面で功績を残し、後年立花姓を賜ります。関ヶ原の戦いののち立花宗茂が改易になると、彼は黒田氏に仕官、故郷で隠棲ののち亡くなり、養徳山に葬られました。さらに分骨され、生前の約束どおり、梅岳寺（糟屋郡新宮町）にある敬愛する別次道雪の墓の傍らにも葬られました。

### 信解院

信解院は道雪の養女で、立花宗茂の実の妹の甲斐姫のことで、薦野増時の長子・成家（立花吉右衛門）の夫人となりました。増時の才覚にほれ込んだ道雪は、彼女を成家に嫁がせ、薦野氏との絆を強く結びました。成家は武芸に秀でた人物で、朝鮮出兵や関ヶ原の戦い、柳川での八院合戦などでめざましい武功を挙げ、宗茂改易後は父とともに黒田家に仕えました。

### 立花重昌

彼は増時からかぞえて5代目の人物です。叔父・立花実山（立花重根）が「綱之騒動」に巻き込まれ、殺害された事件の余波を受け、薦野に隠居し、ここで亡くなりました。

